

里山における新たな鳥獣被害防止対策推進事業

目的

近年、シカの生息域は、県北東部から県中北部へ拡大し、農林被害金額は約3千万円で推移している。特に、本格的な利用期を迎えた森林では、再造林による林業サイクルを循環させていくことが重要であるが、シカによるスギ・ヒノキの苗木への食害が増加するなど、森林所有者の林業生産の意欲を減退させる一因となっている。

こうした中、狩猟者の高齢化や減少が進展している中山間地域では、森林内に生息するシカの効果的捕獲対策への重要度が高まっており、その対策としてDXの導入を目指す地域があるが、新たな技術には課題が多いことから、その具体的かつ効果的手法の確立を目指す。

また、再造林地では、シカによる森林被害防止対策の効果的手法の確立への重要度が高まっていることから、再造林地における防護対策を進めるため、専門家を活用し、地域の実情に応じたシカ被害防止対策技術の確立を目指す。

令和6年度事業概要

1 事業内容

○DXによる効果的なシカ捕獲技術の検証

既にドローン等を導入している先進地区において、市町村、狩猟関係者及び専門家と連携し、森林内に生息するシカについて、DXを活用した捕獲対策でのデータ収集と課題分析を行い、効果的捕獲技術の確立に向けた検証を行う。



<ドローン>



<ドローンの操縦>

○地域の実情に応じた森林被害防止対策の検討

再造林地における効果的かつ効率的なシカ被害防止対策に取り組む地区において、市町村、狩猟関係者及び専門家が連携し、防護及び捕獲体制の整備を行う。また、シカ道の利用状況調査や食害リスクの評価等のデータ収集を行い、収集したデータを活用して再造林地における効果的なシカ被害防止対策技術の確立に向けた検討を行う。

2 事業主体 県（株式会社野生鳥獣対策連携センターへ調査業務委託予定）

3 令和6年度 おかやま森づくり県民税充当額 6,000千円

4 事業期間 令和6年度